

## 八代市立幼稚園規模適正化等審議会 第5回会議 会議録

開催年月日	令和3年10月25日（月）
開催場所	八代市公民館 会議室 AB
開催時間	午前9時30分～午前11時30分
出席委員	有田委員 宮崎委員 徳田委員 森委員 岡田委員 桑原委員 岩坂委員 山本委員 渡邊委員
事務局	中部長 福本次長 高嶋学校教育課長 加賀審議員 早瀬課長補佐 有働指導主事
傍聴者	なし
議事案件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・少人数指導のメリットとデメリットについて</li> <li>・幼稚園教育の目的を十分に果たすために必要な集団の在り方について</li> <li>・今後のスケジュールについて</li> </ul>

### 【内容】

#### 1 少人数指導のメリットとデメリットについて

- (1) 事務局より資料をもとに説明
- (2) 意見交換  
特に意見なし

#### 2 幼稚園教育の目的を十分に果たすために必要な集団の在り方について

- (1) 事務局より資料をもとに説明
- (2) 意見交換

委員：必要な集団の在り方については、教育効果を最大限に発揮するためである。子供を第一に考えた公立幼稚園の在り方についてそれぞれの立場から意見をいただきたい。

平成22年度に示された休園の基準は参考にしない。

委員：保護者の立場から話したい。今、（我が子のクラスは）9人の園児がいるが、集団生活として少なすぎず多すぎず、先生目も行き届いている。帰りに先生から子供の様子をきめ細かに伝えてもらえる。しかし、集団生活での心づくり、人間関係づくりの場としては、人数が少なすぎると感じる。（閉園の基準の）18人というと1クラス最低6人が必要であると考えられている。現在一園あたり80人が定員となっているが、（幼稚園教育の目的を十分に果たすための必要な集団としては）今の先生の体制では多いと思う。3歳児の定員20人を10人、4歳児、5歳児の定員30人を15人の半数でよいのではないか。八代市が掲げている教育基本方針を

十分に果たすことができると感じている。

委員：定員の半数くらいがよいのでないかという意見だった。

委員：4，5年前くらいから18人切ったら閉園になると保護者の間でも話題になった。例えば、運動会のリレーでもすぐ終わってしまい寂しい面もある。人数が増えれば、今受けている恩恵も受けにくくなる。どちらがよいか悩んでしまう。私の子供が入ったころは、（抽選のため）希望する園に入園できず、他園に通わせた保護者もいた。10年も経っていないのにこのように変化してしまった。社会状況もあると思う。具体的な数は難しくて申し上げられない。

委員：〇〇幼稚園が増えていて、幼稚園、保護者、地域の方の努力かなと感じた。全体的な先生の数と園児の数で適正かどうか考えるのではないか。

委員：18人という数が打ち出されたのは、龍峯幼稚園が3歳児保育を始めたときだった。3，4歳児を一クラスにしたときに18人という数を打ち出された。当時はどの園も十分に安定していたが、その当時、18人に減ったら閉園するという事になった。龍峯幼稚園が無くなったら、地域の方からとても寂しいという声が聞こえてきた。幼稚園が無くなって、地域に賑わいが無くなった。幼稚園に子供が集まって生活するという事はとても大切な事だったと思う。

△△幼稚園は抽選だった。半数くらいがもれた。もれた人が他園の抽選でももれてしまうこともあり、保護者もきつそうだった。△△幼稚園を2クラスにしてほしいという意見も出た。当時は3歳児を2クラスにして定員を100人にしてもよいと思った。保護者は、もれるのが嫌という理由で、△△幼稚園から遠のいていかれた。その当時は、△△幼稚園周辺にどんどん家が建っていたので、園児数も増えると思っていた。しかし、家を建てると経済的な理由から働く方も増えて、△△幼稚園は減っていった。

事務局から説明があったように、人数が少ないということはプラスの面もあるが、切磋琢磨することができない。今度、幼稚園に「親の学びプログラム」の指導に行くが、子供と親の遊び、親の学びもしてほしいという依頼があった。一つの遊びをしようとするときに、人数が多いとまとまらないが、今の幼稚園の子供は、落ち着いてしっかり話も聞くことができる。よい点がたくさんあるが、友達同士の切磋琢磨をとおした学び合いが減っているところが気になる。先生方は、運動会でも子供たちの活躍の場を一生懸命工夫しておられる。少ない中でもやり方を工夫すれば、学びの場になると感じた。

委員：人数は具体的には分からないという意見、半数程度がよいのでないかという意見が出ている。幼稚園の先生方の意見を伺いたい。

委員：幼稚園教育は、子供たちが家庭ではできない社会性を集団の中で身に付けていくことが大事である。コミュニケーション力を高めたり、友達と協力し合ったり、互いを認め合ったりする社会性を高め合う適正な人数を確保しないと、幼稚園教育の大きな役割が果たせないのではないか。

今、保育園籍、幼稚園籍あわせて3, 4, 5歳児の定員を15人ずつにしている。子供たちが伸び伸びと自分を発揮して遊べて、先生たちが子供一人一人を把握できる人数を15人が適正と考えて設定している。年長児の30人はとても無理である。子供たちは集団遊びが広がり楽しく過ごせるが、先生の把握が難しい。年長児になるとお互いの意見を出し合ったり、集団遊びが広がったりするので20人くらいまでだったらよいのではないか。年少児の20人定員では、新学期は大変だと思う。現在のところ（保育園では）15人の定員をオーバーしていない。年少、年中が12人、年長が15人である。これから幼稚園の方の募集が始まる。

委員：（八代市立幼稚園）6園の園長、職員の意見を集約してきたのでお伝えする。3年保育は子供の育ちに大切なので、年齢ごとのクラスを残してほしい。メリットは、教師が一人一人の自尊感情を育てることができ、その子が何を考え、どこが育とうとしているかがよく見える。そのために何をすればよいかも分かる。しかし、子供の協同性や規範意識など育ちににくい部分もある。定員については、子供が自己発揮でき、先生と関われるように、3歳児は10～15人、4歳児は10～20人、5歳児は15～20人程度がよいと考えた。

委員：幼稚園規模適正化審議会では、幼稚園教育の必要性は全員の共通認識である。それに沿って話し合いをしてきた。このままでは、持続可能ではない。次回が答申なので、結論を出さなければならない。

敷川内分校の統廃合では苦勞した。私は、公平、公正、中立の立場から保護者に説明し納得していただいた。子供たちには適度な競争が必要である。少子化は自然現象だから、後は通学手段を考えるとよいのではないかと保護者にも訴えた。その結果、現在は、敷川内分校の1～3年生はスクールバスを利用している。保護者も安心して本校に送り出し、子供たちの目も輝いている。私としては、園施設の充実したところに統合していけばよいと考えている。

委員：人数は今言われなかったが、社会性や切磋琢磨にはある程度の人数が必要なので、そのためには統合という言葉が出たが、再編が必要ではないかという意見だった。

委員：私は、小学校に長く務めた経験から申し上げたい。三つの小学校が統合して一つの小学校となったときの校長だった。当時統合に反対だった保護者が一年後、「子供が、友達が増えて学校が楽しいと言っている。統合してよかった。」と言われた。その後、50人の学校から800人の大規模校に行くことになった。事務局から説明があったように、大規模校と小規模校、どちらにもメリットとデメリットがある。大きすぎても小さすぎてもよくない。子供たちの幸せを考えると、どのくらいがよいのか、話を聴きながら考えた。保護者会からも先生方からもほぼ同じような人数を言われた。現場の方が言われる数字は、子供たちの幸せを思って言われたと思う。幼稚園教育の本質に「遊びを通して行う」ということが大前

提にある。遊びというのは一人遊びでなく、集団のもつ力というのを受け止めて発揮できる集団であってほしい。先ほど意見に出た人数は必要だと思う。ダイナミックな教育を幼稚園でやってほしい。小学校の例を挙げると、一クラス35人いて、それに特別支援学級の子供たちが交流で来ると40人くらいになる。1年生で40人は、非常に大変な状況がある。

八代市立幼稚園の代陽から千丁まで、全部大規模から小規模の学校に通うであろう子供たちがいると思う。子供たちの最近の様子を見ていて気になるのが、友達との関わり合い方が苦手な子供が増えてきていることである。担任も苦勞しており、校長や教頭も教室に入ったりしている。保護者や現場の先生方の意見を尊重して、子供たちが本当にしっかり仲間づくりができて、自分の力を発揮できる人数を考えていくのがよいと考えた。

委員：教育効果を高めるということで、定員の半数以上くらいは必要ではないかという意見が多く出た。

今、6園あるが、園が少なくなる可能性もあるが、審議会としてもそれは有りということではいか。

委員：適正な人数を確保するために、統廃合をして園児を集めるというのが一つの考え方である。もう一つは保護者が預けやすいようなニーズを考えて、預かり保育の延長や長期休業中の預かり保育を計画し、園児を増やすという考え方もある。

委員：教育委員会の考えも聞きたい。こども園という意見が出たときどうするか。

委員：以前こども園のことも協議したときに、その意見は出なかったが、今回出たのでこども園についても考える。また、幼稚園教育は4時間であるが、時間を長くしてほしいという意見も含めて、説明をしていただきたい。

委員：教育委員会の意見を聞くと、教育委員会の答えになってしまう。最初から言うように、結論ありきの会はやめてほしい。教育委員会もきちんと意見を聞くという話だったので、ここで教育委員会の話を聞くと、流れがそちらに行ってしまう。

委員：ありがとうございます。まず、延長保育やこども園化について意見をいただきたい。

委員：こども園にするためには、いろいろな設備が必要である。それができるのかということが一つある。金銭的な事があるので難しいかと思ったので、教育委員会に尋ねてみたいと思った。

施設も老朽化しているので、実際幼稚園に受付に来ていて、きれいではなかったからということで他の園を見に行かれる保護者がいたと聞いたことがある。園舎などの見た目を気にする方もいる。

委員：こども園にされたところは、保育園籍の子供が増えたという話があった。

委員：こども園にするには、幼稚園型にすれば、3、4、5歳児でも可能だと思う。給食も給食センターからの搬入なので、給食室をつくる必要はない。

委員：小さい子供を預かるとなると、いろいろな施設が必要である。

委員：0，1，2歳児は預からなくてもよかったと思う。幼保連携でなく、幼稚園型がある。

委員：委員がおっしゃったとおり、私たちの意見を総合判断して答申をとるということになる。

委員：私たち団塊の世代は、百何十人幼稚園にいた。その時代のメリットは何だったか。今、少ない中で育った人はどんなメリットがあったか考える必要がある。私たちの頃は、誰が誰か分からないような状態で過ごしてきた。でも生活していける。費用対効果も考えなければいけないだろうし、こども園になればいろいろ出てくる。私たちの意見がそうなったときに、教育委員会が決めることである。そこは私たちは考える必要はないと考える。お金はどうにかなる。子供のことを先に考える必要がある。

委員：この審議会では、保護者が主体なのか子供が主体なのかよく考えて審議してきたつもりである。人間は適度な競争が必要である。

事務局：この審議会の答申の中では、こういう幼稚園の在り方がよいというところが、いろいろな議論の中で導かれたというところを示して、それについて付け加える意見や省く意見をいただいて、最終的に答申の形にしていく。それを受けて、教育委員会でどのような手を打つかを検討していきたい。例えば、このためにもっと募集をしていけばよいということか、園を再編するののかというのは、教育委員会ですっかり議論をしていくことになる。

委員：こども園化するということに関しては難しいという意見が出たが、こども園にした方がよいという意見はあるか。

委員：一般市民の中では、こども園になるのが当然と考える人もいる。多いのがこのままではいけないという意見である。園児数が自然減少しているので、こういう方向で行かざるを得ないという意見である。

委員：八代市には保育園が50園ほどある。公立幼稚園もこども園ということなら、保育園の部分を担当することになるか。

委員：今の幼稚園の入園者の数からしたら、そうくなっていくのではないかと思う。幼稚園の先生方は、努力されているのはよく分かる。一般からすると、努力するのは当たり前である。仕事で給料をもらっているので、ちゃんとするのが当たり前である。現状維持が難しい。

委員：統合して幼稚園を存続させていきましょう。

委員：こども園も市民の中には必要と考える意見がある。また統合した方がよいという意見もある。統合という意見に対してはどうか。

委員：保護者の「未来を考える会」では、6園が無理なら統合してでも残していただきたいという意見が出ている。今の幼稚園の教育に満足している保護者が多い。この教育を続けていただくイメージなので、合併や統合は仕方ないと思う。

委員：こども園化についてはどうか。

委員：市立幼稚園を存続していくことを考えれば、今のシステムでは難しいと思う。それが統廃合なのか、こども園化なのか、保護者のニーズに応えるのか、どの方法でもよいので、存続してほしい。

委員：3歳児保育という意見も以前出た。3歳になった明くる年の4月からでないと幼稚園は受け入れないが、満3歳になったら受け入れる考えもあった。前回話合いがなされなかったので、一つの方法としてお聞きしたい。

委員：学校と同じような基準なので、4月に3歳になった子は、1年間待たないといけないことになる。だから、満3歳児保育を認めてほしいと提案した。この前の市長選挙があったが、中村市長のビジョンの中の「次世代を担う子供の育成」という中の最初に、0歳から2歳の保育料の完全無償化を掲げておられる。保育園に預けられる方は完全無償化になるかもしれない。3歳になると、友達と遊びたいなど視野が広がる時期なので、公立幼稚園も3歳になったら預けられる施設になった方がよいと思う。満3歳児保育も併せて検討していただきたい。

委員：これについてはどうか。

委員：満3歳児入園は今の時代必要だと考える。八代市が長く公立幼稚園を存続してきた思いを受け継いで、発展的に残していく必要があると考える。教育内容も特色をアピールしていくことが必要である。小学校、中学校、高校でも例えばサイエンススクール、グローバルスクールなどいろいろな特色を出している。八代市の公立幼稚園も食育に重点的に取り組んでいるとか、幼保小連携に取り組んでいるとか特色をアピールしていくのも大事だと思う。

あわせて、6園の設置場所を考えると、一中校区が二つ、三中校区が二つ、二中与千丁中校区である。私の住む校区には公立保育園も幼稚園もない。八代市全体を見て、地域の拠点となる幼稚園教育のセンター的機能を今後持たせるような公立幼稚園の在り方が必要である。確かに、地域に愛されて密着している幼稚園も大切だが、八代市全体の子供たちのことを考えたら、いろいろなところから通えるように、センター的機能を持たせた幼稚園が将来的に必要だと思う。増やす努力と焦点化する努力の両方が必要である。

委員：八代市立幼稚園の役割として、幼児教育センター的役割が大事である。幼稚園保育園も含めて小学校との連携が大事である。小1プロブレムと言われるが、幼保小連携が重要視されている。幼児教育センター的機能で子供の学びや育ちを見ていくことではないかと思う。

これまで出た意見では、定員の半数以上は必要ではないか。3歳児なら10人、4歳児は10～20人、5歳児は15～20人、園として40人以上は必要ではないかという意見が出た。必要な集団とするために、再編もやむを得ないのではないかという意見、こども園化を考えていく必要もあるのではないかという意見もあった。また、満3歳児保育ということもあった。幼児教育のセンター的機能としての役割も出していかなければならないという意見が出た。

委員：幼稚園教育は日本の教育のスタートである。

委員：園児数減少について考えていただいてありがたい。八代市立幼稚園を残してほしい。八代市として幼稚園教育が続くような対応を考えていただきたい。公立幼稚園として特別支援教育の充実が大切だと考える。他園で断られて入れないという子供も入ってこられる。そのような子供たちにも教育できるような適切なシステムを整えていただきたい。インクルーシブ教育と言われるが、障害のない子供もいろいろな人と関わる場になるのではないか。そこも含めて教育委員会に考えていただきたい。

委員：メリット、デメリットを考えると、子供たちの健やかな成長を考えるとある程度の人数が必要だと考える。統廃合も必要と考える。預かり保育やこども園化の話も出ているので、それもしないと子供は集まらないと思う。その中において、幼稚園教育を支える先生方の学びも確保できるような体制を整えてほしい。

委員：選ばれる幼稚園という話題もあったが、市民のニーズを踏まえて、子供たちの幸せを考えて、しっかり特色を出すことを考えて選択肢を広げてほしい。八代市全体を考えて地域性を考慮した拠点づくり、適切な集団活動の確保を踏まえた拠点づくりをしていただきたい。

委員：子供たちのための幼稚園教育であってほしい。

委員：子供の事を考えてほしい。そして、現実を見てほしい。

委員：要望書にも書いたように、6園あるのが0になるのは寂しい。人数が増えて活気が出てくるのが一番であるが、現実を見ればそれは容易なことではない。統廃合もやむを得ない。5～6年後、あのとき園数を減らしてよかったと思えるならそれでよい。しかし、今の体制ではよくないので考えていただきたい。

委員：私たちの世代（今の親）は、子供と関わる時間が少ない。この弊害が心の問題として今後出てくるのではないか。今2時半に帰ってきて、夕方ゆっくり過ごすのがちょうどよいと考えている。八代市で6園の市立幼稚園がある。大切にされてきた教育であり、すごくよい教育をしていただいている。何とか存続していただけたらと思っている。

委員：本日の議題については終わりたい。